



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩  
事務局 〒761-2103  
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
綾川町国民健康保険陶病院気付  
副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛  
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 愛媛県研究会における最近の活動

四国ブロック副支部長(愛媛) 川本龍一 愛媛生協病院 家庭医療科 原 穂高

四国ブロックにおける後期研修医ポートフォリオ発表会を開催いたしました。各ブロック関係者の皆さんとの交流も兼ね、徳島県と高知県からも後期研修医が参加され活発な議論がなされました。がんの告知に悩んだ症例や在宅での終末期を望みながら叶えられなかった症例など研修医の葛藤が伝わる発表会でした。

＜第2回四国ブロックプログラム交流会＞

＜後期研修医ポートフォリオ発表会＞

2016年2月13日 愛媛県立中央病院管理棟4階中会議室

◆ 14:00～15:20 家庭医療 ポートフォリオ発表会

四国内の家庭医療後期研修中の専攻医3名発表予定

◆ 15:30～17:50 家庭医療専門医 試験対策講座

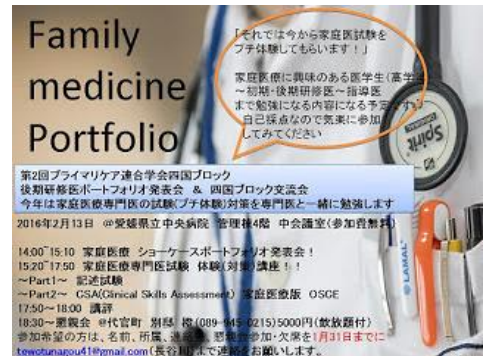
愛媛生協病院 家庭医療科 原穂高先生、尾崎達哉先生  
山本美奈子先生

～Part1～ 記述試験

～Part2～ CSA(Clinical Skills Assessment) 家庭医療版 OSCE

◆ 17:50～18:00 講評(愛媛大学医学部地域医療学 川本龍一教授)

◆ 18:30～ 懇親会 @代官町 別邸 橙(089-945-0215) 参加費5000円



★2 へき地医療勤務医師を対象とした講演会：「生食注射によるエコーガイド下Fasciaリリース  
～解剖・動き・エコーによる多職種連携を目指して～」

高知医療センター総合診療科 澤田 努

本講演会を平成28年1月9日(土)15時～18時にホテル日航高知旭ロイヤル2F あけぼので開催しました。今回の講師として、弘前大学医学部附属病院 総合診療部助手小林 只先生をお招きしました。小林先生は、エコーガイド下の生食による筋膜リリースの分野における第一人者のご高名な先生であり、今回の講演でも、実際に肩こりや腰痛を持病として持つ参加者に対して実際に生食による筋膜リリース治療を実践していただき、見事に症状が軽減された実例も皆で目の当たりにすることができました。参加した先生方からは「早速、明日からの日常診療の場ですぐに実践してみたい」との声が多く聞かれました。今回の講演の要点は以下の4つ。

1) 医師のパワースーツとして現場の診療力を100倍に向上させるエコー機器

生理食塩水によるエコーガイド下筋膜リリース注射のような安全かつ簡単に実施可能な筋軟部組織疼痛の治療方法が開発され、一般内科でも安全・適切な局所治療が可能になり、患者満足度も急上昇している。今後、運動器エコーと筋軟部組織疼痛を共通言語にして多職種が連携した地域の運動器疼痛ケアの展開が期待される

2) 医療の民主化を促し、地域ケアを発展させるための多職種使用の「判断のためのポケットエコー」



スマートフォンのごとく、誰もが1人1台使う道具としてのポケットエコーの使い方は「その場で手軽にちょっと確認」である。エコー機器は、薬事法上は電子体温計や血圧計と同じ分類であり、しかも小型・安価・精度を担保したポケットエコーが開発されるにつれて、もはやエコーは医師だけが使用する特殊な道具ではなく、看護師・検査技師・療法士・鍼灸師・一般人にもすでに使用されている。

3) 疼痛治療に携わるプライマリ・ケア医の急増を支える、安全・簡単・有効的な治療手段としての「エコー×生理食塩水×筋膜性疼痛×多職種」という整形内科技術人が痛みを感じる解剖学的部位の多くは「膜Fascia」である。Fasciaは繊維性結合組織の総称で、その配列構造と密度から内臓(髄膜・胸腹膜など)や皮下組織・脂肪織・筋膜・靭帯・腱などに分類される。運動器疼痛で高頻度である筋膜性疼痛症候群(MPS: “Myofascial” painsyndrome)は、その中でも「筋膜Myofascia」に注目した概念である。

4) 人々にとって必要かつ身近な医療の発展的転換を図るために、ヘルスケア・デバイスと地域が効果的かつ適切に融合・協力するための注意点と考え方

ウェアラブル・デバイス(身体に装着して利用する機器)の急速な発展により、バイタルサイン測定は大衆化(一般人が測定・管理が現実化)された。さらに、エコーを含むほとんどの医療機器もまた大衆化されつつある現状で、その判断基準(医師が病院内で判断する基準とは違う医療機関への連絡基準など)を早急に整備しなければ、社会・地域は大きな混乱を来すだろう。

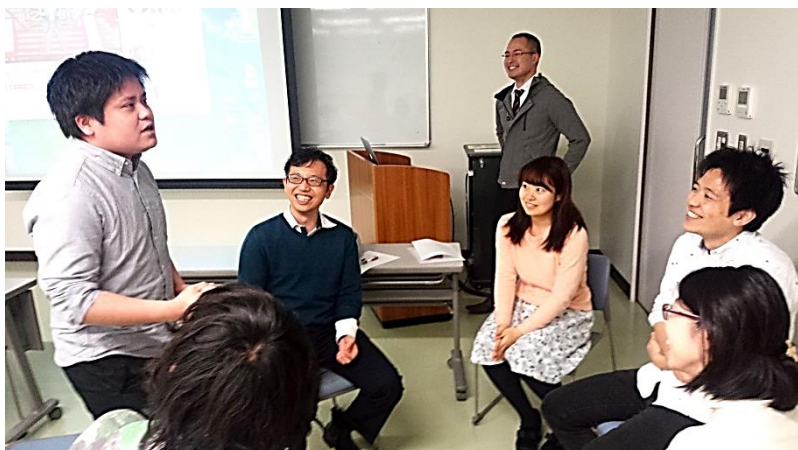


### ★3 第7回 SAKURA-GM カンファレンス

徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合診療医学分野(徳島) 谷 憲治

平成28年1月31日、徳島大学医学生サークル「地域医療研究会」による第7回SAKURA-GMカンファレンスが開催されました。今回は、サークルOBで、現在亀田ファミリークリニック館山で後期研修中の河南真吾先生が徳島に帰ってきて講師を務めてくれました。蔵本キャンパス内の総合研究棟に19名の医学生と医師が集まり、「家庭医のコミュニケーション術」をテーマにして、低学年のメンバーにとっても、医学以外の生活面においても役立つコミュニケーション法を学ぶカンファレンスとなりました。

概要を示します。お笑いタレントのネタで自己紹介をするという、驚愕の亀田式アイスブレイキングで始まり、帰りたいた



第7回  
**SAKURA-GM カンファレンス**  
サークル活動や恋愛に活かせる！  
～家庭医のコミュニケーション術～

SHIKOKUのAWAのKURAMOTOでGeneral Medicineを共に学ぼう！

そんな思いをコンセプトに、  
徳島大学医学生サークル「地域医療研究会」が主催する勉強会…  
それが**SAKURA-GM**カンファレンスです。  
授業だけでは学べない、実際の「医療」について、  
みんなと一緒に学んでいきましょう♪

今回のテーマは、**家庭医のコミュニケーション術**

家庭医は一般的な内科診察をするだけでなく、  
生まれてから亡くなるまでの様々なライフステージの健康問題に対応します。  
そのため相手の不安を汲み取って、慮したり、一緒に悩んだり、  
助言をして動かしたりする技術の勉強が仕事上大切になってきます。

今回は家庭医の仕事、そしてコミュニケーション術について教えて頂きます。  
良医になるヒントとなるだけでなく、  
サークル活動や友情・恋愛・バイトなどに役立つので、お楽しみに！！

講師としてお招きするのは、  
サークルOBである亀田ファミリークリニック館山の河南真吾先生です。  
どなたでも気軽に参加ください！

・ 時間：平成28年1月31日(日) 16:00～18:15  
・ 場所：総合研究棟3階小ホール D31(蔵本キャンパス内)

共催：徳島大学医学生サークル「地域医療研究会」・徳島大学大学院総合診療医学分野



思ったというスタッフもいました。認知症を持つ高齢者との接し方としてのユマニチュードという手法は万人への共通したコミュニケーション法として応用できるものでした。ADHDの子供たちへのトレーニングプログラムとしてのペアレント・トレーニングは、小児診療においてのみでなく、我々の子育てや医学生にとっての後輩指導にも応用できる手法でした。今回のカンファレンスの内容は、大学の講義では学べないが、将来の医師としてだけでなく、家族や友人、先輩後輩とのコミュニケーションをうまく取っていく上で明日から役立つ素晴らしいものでした。



#### ★4 徳島南部で地域医療の拠点、由岐病院から新しく美波病院へ

美波病院 (旧 由岐病院) 院長 本田壮一 (徳島)

徳島県南部で長年地域医療を担ってきたのが由岐病院で、このたび、海岸線からやや離れた高台に免震構造の病院として「美波病院」が3月から開院します。本稿では概要やプライマリ・ケアの実践・教育について簡単に報告します。

まず由岐病院の経緯について、1937年に開院後1959年に町立となり、1979年に鉄筋コンクリート3階建てになった以降のプライマリ・ケアの実践について、下記の業務を担ってきました。

- 1) 対象住民の少子・高齢化が進行し、母体の自治体も合併し美波町となった。
- 2) 開腹手術を院内で行わなくなり、小松島市・阿南市などの大規模病院との医療連携が増加。
- 3) 老人ホームができ、施設からの発熱者の受診・入院、改善後の紹介所が多くなった。
- 4) 高規格道、救急車・ドクターヘリのシステムが構築され、患者搬送が便利になった。
- 5) 東日本大震災後、当院は、南海トラフ巨大地震・津波の被災の可能性が大と指摘された。

今回代議員を拝命した自身の紹介を致します。徳島大学を1983年に卒業。代議員の板東、白川の両先生は、旧第一内科(齋藤史郎元学長)の同門で、それぞれ学生時代に準硬式野球部や外国語研究会で、ご一緒しました。学生実習などでは、徳島大学の谷教授・山口先生にご指導頂いています。また、自治医大出身の鎌村、木下、藤原の諸先生らと、国保診療施設の研究会などで交流があります。

出身地の由岐病院(写真1)に勤務し、やがて11年になります。当院の現在の建物は、由岐港に隣接した埋め立て地にあり、鉄筋コンクリート3階建て(1979年)と古く、耐震となっておりません。南海トラフ巨大地震の怖れから、3月より高台(海拔23m)の免震構造の建物に新築・移転します(写真2)。リハビリテーションを開始し、電子カルテを導入予定です。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉(ビスマルク)をご存知でしょうか? 「れ(連





携)・き(教育)・し(幸福、しあわせ)」をキーワードに、プライマリ・ケアの実践の場として邁進したいと思います。実際問題として、マンパワーが弱いのは否めません。学生実習はいろいろなTPOで従来行っており、その中からひとこま(写真3)を示します。今後とも、皆さま方からのご理解ご協力によって、教育活動も展開していくことができますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

現在の問題点と将来への課題については、マンパワーが不十分であり、救急診療、夜間・休日の診療に不安がみられます。また、プライマリ・ケアによる連携・教育を密にし「持続可能な医療」を行ってきており、今後も継続していきたいと考えております。

さらに、患者・家族の感謝とともに、医学・医療の進歩を学ぶことにやりがいを見出しており、高台の免震構造の病院への移転後も、このマインドを持ち続けたいと思います。



## ★5 日本プライマリ・ケア連合学会・第8回学術大会の準備について

四国ブロック支部 大原昌樹、板東 浩

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会は、平成29年(2017)年5月12-14日に、四国ブロック支部の担当でおこなわれることに決定され、準備を進めております。

昨年11月に高松で行われた四国ブロック支部学術集会后、大会に向けて実行委員会を行い、本学会井垣事務局長や大会運営に関わるリンケージから山下様にも参加いただきました。スケジュールなどの説明が行われるとともに、大会テーマについて議論しました。いろいろな案が出ましたが、最終的に、「総合診療が拓く未来～地域に新たな架け橋を～」に決定しました。これは総合診療専門医の研修が始まる年に行われる大会であり研修内容について議論が行われると考えられること、地域に目を向けて住民との懸け橋となる医師になってほしいという期待、そして四国で行われるため瀬戸大橋と言う意味の懸け橋、というような意味を含めて考えました。

今年に入り、実行委員38名が確定し、メーリングリストを作成しました。また、ポスターについて、あらかじめ、実行委員に対して、どのような図案やアイデアが好ましいかのアンケートを行いました。その結果を



アンケートを行いました。その結果を

もとにして、3種類のチラシ案を作成してもらい、実行委員による投票を行い、その結果から上に示すようなチラシに決定させていただきました。今後このチラシで大会を盛り上げて参りますので、よろしくお願いいたします。

The 8th Annual Conference of  
Japan Primary Care Association  
第8回  
日本プライマリケア連合学会  
学術大会

総合診療が拓く未来  
～地域に新たな架け橋を～

会期 2017年5月13日(土)・14日(日)  
会場 サンポートホール高松  
高松シンボルタワー/JRホテルクメント高松  
大会長 板東 浩 (学会四国ブロック支部長)  
URL <http://www.c-linkage.co.jp/jpca2017/>

運営事務局: 株式会社コンベンションリンケージ  
〒12-0016 東京都千代田区千代田1-3-6 3F 博多館216  
TEL:03-437-4188 / FAX:03-437-4182 Email:jpca2017@c-linkage.co.jp